

富岡の街 記憶でつなぐ

震災前の街並みを復元しようと模型を見ながら来場した富岡町民から聞き取り調査を行う学生④



模型に色付け

「『失われた街』模型復元プロジェクト」記憶の街ワークショップfor富岡は4日から、いわき市平北白土の富岡町役場いわき支

所敷地内にある多目的集会施設で始まった。7日まで。

会場では町内2地区を縮尺500分の1で復元した模型を展示。町民たちの古里の思い出や記憶を学生たちがつなぐ。神戸大槻橋研究

室が中心となってつくる同プロジェクト実行委の主催、富岡町の共催、日大浦部研究室などの協力。

模型は学生たちが発泡スチロールを使って制作。夜ノ森地区、津波の被害を受けた富岡漁港を含む富岡駅周辺の地区を震災前の航空写真を基に、木々や住宅一軒一軒を細部まで再現した。展示期間中は来場した富岡町民に学生たちが聞き取り調査し、模型に絵の具などで着色して古里の記憶を鮮明にしていく。

参加無料、閲覧自由。開催時間は午前9時～午後5時。問い合わせは高山さん(電話090・6204・5344)へ。